

浸水・渋滞・事故など交通が混乱していました。

こうなったらクルマは動かないのであきらめて帰宅するタイの人もあります。

さてそれでは第31号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

(こちらのメールマガジンは転送可となっています。
御友人や御知り合いでタイに関心ある方にどんどんお伝え下さい。)

何か新しいことを始めようと思われている友人の方、
タイへ旅行計画を立てられている友人の方など

そのような方にもブログとメールマガジンはもしかしたら
役に立つかもしれません。

ブログのリンク先の企業では
日本語送迎サービスをしている企業などもあります。

さらに、「D-MARKマガジン」と言う
タイ観光庁、タイ国際航空協力のフリーマガジンもあります。
紙質がとてもよいものを使っています。

無料ですので是非手に取ってもらえたら幸いです。

<http://www.d-mark.jp/>

□□ No1 タイ株初心者編です ■■

まずはタイの総選挙結果で「国民の力党」が勝利しました。

タイのプミポン国王の実姉にあたるカラヤニ・ワッタナー王女が
逝去されたことも影響し1月17日以降から政治的な活動が再開されました。

その後、国民の力党と連立を発表した中小政党6党は
1月19日、連立政権の樹立で合意したと発表しました。
プラチャーテイパット「民主党」を除く全政党が参加。
与党はおよそ66%を占める議席を確保しています。(定数480)

1月28日には国民の力党のサマック党首がタイの25代目首相に
選出されています。

2006年9月に発生したクーデターからおよそ1年5カ月ぶりに

民政へ戻ることになり、再びタクシン派による政権が復活するかたちになります。

翌日の29日はプミポン国王により、サマック党首の首相就任が承認されています。
これによりスラユット暫定首相は退任しています。

一部の報道では
海外にいるタクシン氏にあいさつ、連絡を取る政治家の数が増加しているようです。
もっともすごいのでは9月クーデターを指揮したソンティ前陸軍司令官は「タクシン氏とは兄弟のように電話で話したよ」とコメント。
政治的な話はしていないが、挨拶程度の会話だったとしています。

敵だったもの同士が仲直りする変わり身の早さ・・・。

□□ No2 タイ株上級者編です ■■
タイ株の上場企業詳細のコーナーを作りました。

●● PTTアロマティクス・リファイナリー(PTTAR) 031 です。 ○○

こちらタイの石油精製大手2位であったラヨンリファイナリー(RRC)
(メルマガ18号で取り上げました)と、
タイの芳香系化学を扱うアロマティクス・タイランド(ATC)
が合併し誕生した製油・石油化学大手企業になります。

10億ドルを超える投資を今後も続ける計画を発表済みです。
今後5年間で下流工程化学製品と品質改善に投資されます。

ATCとRRCの合併はスケールオブメリットを強化し、
強い財務状態と信用力を高めています。

さらに現在建設中のアロマティクス・コンプレックス2
<CPX2>が8月以降完成する計画です。
こちらの新工場が完成することで、
製油能力は日量28万バレルに、芳香族の年産能力は222万トンに倍増する
としています。

さらにはこの生産品がPTTへ供給される長期契約を結んでいるために、
そのメリットも非常に高いです。

□□ No3 タイ国内ニュース編です ■■

それでは今後タイの経済政策はどのように進むのかですが、

国民の力党のサマック党首が1月28日の議会で首相に選出。

事実上タクシン元首相の政策の流れを引き継ぐかたちで
タイの経済界からも
積極的なインフラ事業、建設推進の声が多く、
期待が高まっているようです。

<このあたり関連するは不動産・ゼネコン・建設資材ですね。>

そして原油高が続く中、タイでも物価対策を求める
意見が大勢を占めています。2008年1月タイ商務省が発表した
消費者物価指数(CPI)上昇率は2007年同月比4.3%でした。

<このあたり食品・衣料のセクターに影響しそうです。>

最後にパーツ高対策です。
タイの国内投資、消費の活性化への政策と共に、
対ドルレートでかなり上昇しているパーツに対して
”パーツ高に対して導入している外資規制法”
などの緩和をどのような時期に解除に踏み切るのかなど、
が注目されています。

<輸出関連業は自動車セクター、電子部品セクターになります。>

□□ No4 追伸です ■■

泰日経済技術振興協会の代表の方に挨拶に行きました。

「泰日工業大学」とは??

日本におられる方はあまりご存じないかもしれませんが
こちら、ホームページになります。

http://www.tpa.or.th/tpanew/about/about_main_jp.php

泰日経済技術振興協会（通称ソーソーター）は、
1970年代当時の泰日経済摩擦収支の悪化による対日感情の悪化を憂いた、

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

元日本留学生・研修生が中心となり、1973年1月、タイ国の経済発展のため、日本からタイへの最新技術と知識の移転・普及、人材育成を行うことを目的に設立された公益法人です。

そして2007年、タイの技術支援目的、自動車や電機産業など「ものづくり」にかかわるタイ人技術者を養成する4年制大学として8月に開校式が行われました。
日本からは森喜朗元首相らが出席していました。

こちらのページ内では
日本のことに関して非常に活発な情報交換などがされています。

<http://www.tpa.or.th/tpawbs/index2006.php?linkMe=4531cEvfGoMe002>

KOREA(韓国)の文字も見えますが・・・。

このような『海外からどのように日本は注目されているのか?』

を感じて、逆視点から覗いて見るのも面白いと思います。

タイの企業を詳細に解説した

「タイ株完全マニュアル企業情報編41社」

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4775990500/asianstocktha-22/ref=nosim>

タイ株取引をどうやって始めるかを解説した

「タイ株完全マニュアル口座開設改訂版」

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4775990551/asianstocktha-22/ref=nosim>

タイで働いた経験やタイビジネスをまとめた

「タイビジネスは止められない」

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4778200527/asianstocktha-22/ref=nosim>

そして

タイの企業をデータよりもその背景を解説した

「日本人が知らなかったタイ株」

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4798115460/asianstocktha-22/ref=nosim>

以上の書籍の感想等、

読まれた方からも是非いただくと幸いです。

<http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4798115460/asianstocktha-22/ref=nosim>

